



# 里親制度を知ってほしい

私たちの周りには、保護者の家出・離婚・病気・児童虐待など、さまざまな事情で保護者と暮らせない子どもが全国で45,000人、兵庫県では約1,500人以上います。そんな子ども達を家庭に迎え入れて育つ機会をプレゼントすることができる里親制度は「子どものための」の大切な制度です。

問い合わせ 子ども家庭総合支援室 ☎31-0643

## なんで里親？

子どもは、安全で安心できる家庭環境の中で、特定の大人と安定した愛着関係をつくることで、自己肯定感を育み、さまざまな人たちと信頼関係を築いていく力をつけていきます。また、子どもたちが将来家庭をつくる時に手がかりにするのは、自分が経験してきた身近な「家庭のイメージ」です。子どもの時から安心できる家庭の中で過ごすことにより、将来生きていくための大きな力となります。



## いろいろな里親のかたち



ある程度の期間  
子どもの成長  
を見守りたい

### 養育里親

原則として0歳～18歳の  
要保護児童を一定期間養  
育する里親です



法的にも親子関  
係を結びたい

### 養子縁組里親

養子縁組を希望する人が  
養子縁組の必要な子ども  
を養育する里親です



仕事が忙しいの  
で休みの日だけ  
も受け入れたい

### 季節・週末里親

お正月休みや夏休み、週末  
などに数日～1週間程度子  
どもを家に迎える里親です

## ご飯をいっしょに食べる。ただそれだけ

芦屋で17年里親をしている山下さん



山下さん

里親になったきっかけは、「週末里親があるからやってみない」という娘からの一言です。そこから今まで、里親を17年続けてこれたのは、子どもの喜ぶ姿が自分の

喜びになっているからだと思います。家で一緒にご飯を食べるだけで子どもたちの心は柔らかくなります。そうすると子どもから素直に愛情を求めたり、全身で喜びを表現したりと家族になっていく感じがします。その姿をみるのが何よりも嬉しいですね。

初めての里子は活発な幼稚園年長の男の子でした。子どもを3人育てた経験があったので大変ではなかったです。でも養育途中で私が病を患ってしまい、途中でお別れすることになり里親も2年ほど休憩していました。「もっと坊やと一緒にいたかった」その思いからこれからも里親として真剣に子どもたちと向き合っていきたいと思いました。

初めての体験もありました。病気のためヘッドギアをつけた3歳の男の子を受け入れたことです。自分で食べることや話すことができず、歩くのも5mがやっとのことでした。スプーン大さじ1杯をがんばって食べ、2杯目を食べると戻ってしまったんです。その子の食べられる量を知らなかったことに反省し、これからは少しずつ増やしていこうと思いました。“子どもの状態を見ながらこちらが理解をして合わせていかなければ”と気づかせてくれました。

印象に残っていることは、1人の少女との出逢いです。家出をしていた高校1年生の女の子が家に来てくれた時、長い間お風呂に入っていなかったのでしょうか、すごい匂いがしていました。その子がお風呂に入っている間に「衣服や上着も洗っていい？」と聞いて洗いました。「明日は起こさないから寝ただけ寝ていいよ」と言うとよっぽど疲れていたのか、お昼近くまで寝ていました。「ご飯にする？もう少し寝る？」と聞くと「ご飯を食べる！」と飛び起きてきました。一時預かりだったため1泊で帰ることになり「短い間だったけど、どうだった？」と聞くと「すごい安心した」と言ってくれました。その言葉に“これから一緒にご飯を食べて生活するだ

けで“この子は家出をしない普通の子どもになるのではないかと里親の必要性を感じました。私は一時預かり・緊急預かりも受け入れているので、こども家庭センターや警察署から連絡があった1時間後には子どもを受け入れられるよう準備をしています。このインタビューを受ける前にも部屋や布団、そしてご飯も作れるように準備をしてきました。

芦屋はまだ里親さんが少ないので、まずは知ってほしいです。里親にも色々な種類があります。月1回の週末里親、夏休み・冬休み期間中の季節里親。もちろん養子縁組里親や養育里親もありますから自分の生活スタイルから選択することができます。なにも難しいことはないんです。“ご飯をもう一つ余分に作って一緒に食べる”というだけなんです。みんな子どもたちは偏食なしでたっぷり食べてくれるから作りがいもありますよ。里親って楽しいことばかりです。

